

横浜市インフルエンザ流行情報 6号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

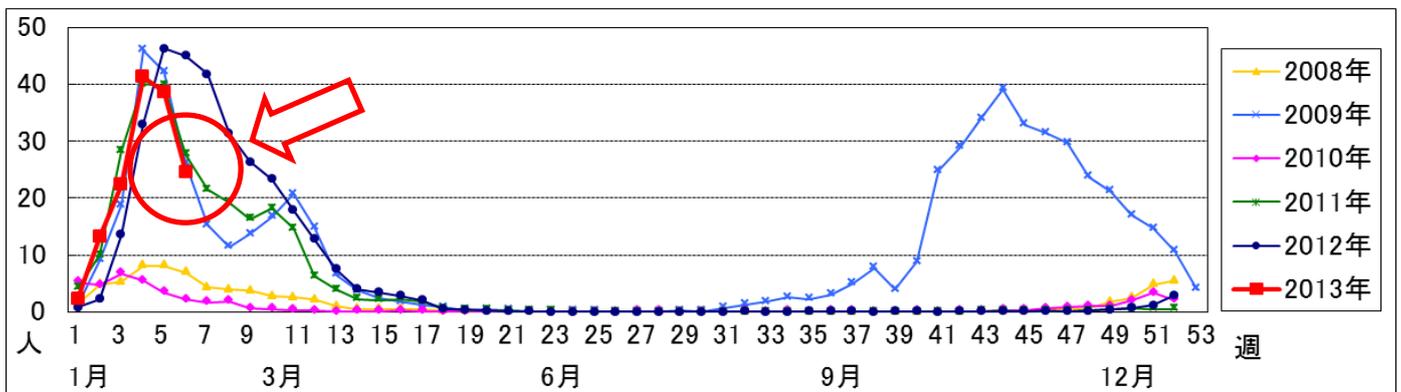
《トピックス》

- 流行のピークは過ぎましたが、現在も警報発令中です。
- 流行の主体は **AH3 亜型 (A 香港型)** です。B型はほとんど検出されていません。
- 予防では、うがい、手洗いや、マスクをしましょう。
- もし罹った場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



※参考 [平成24年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

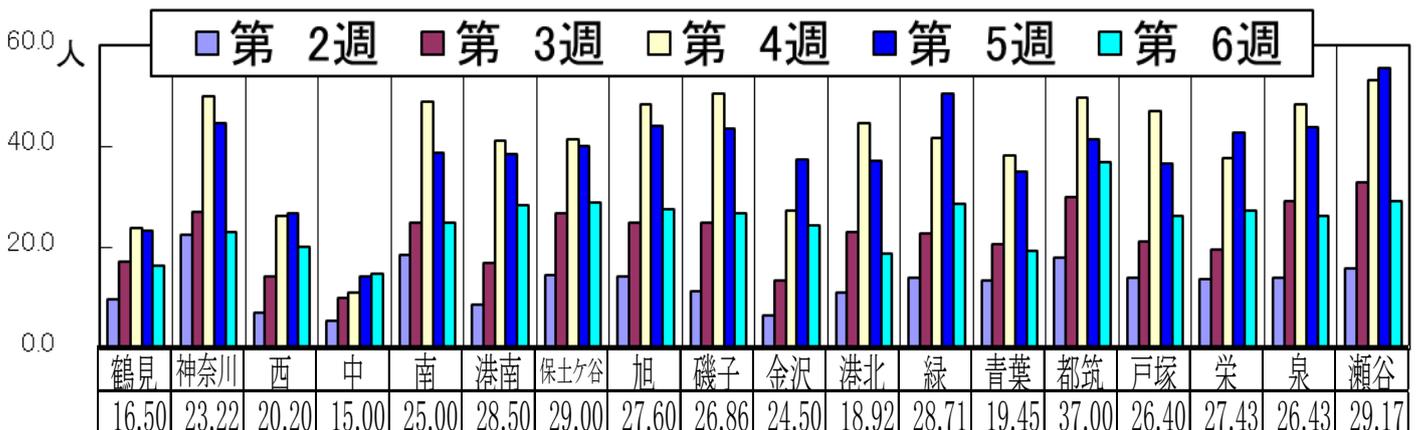
1 市内流行状況:第6週は定点あたり24.65^{※1}と、ピーク時の41.54からかなり減少しましたが、依然として警報レベル^{※2}を維持しています。



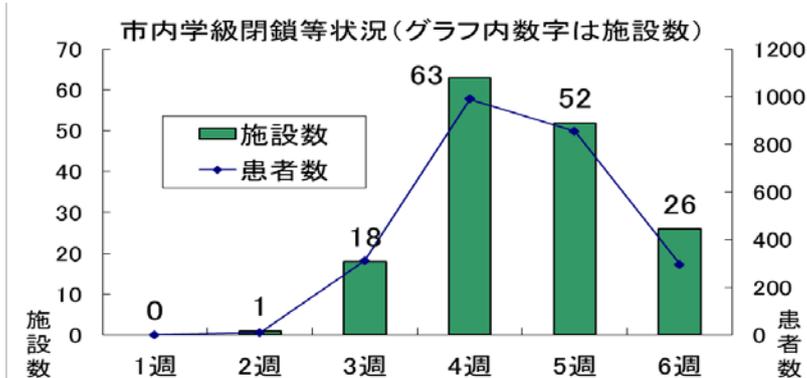
※1 定点・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 警報レベル・警報開始基準値(30.00)を上回ると、終息基準値(10.00)を下回るまで警報は解除されません。

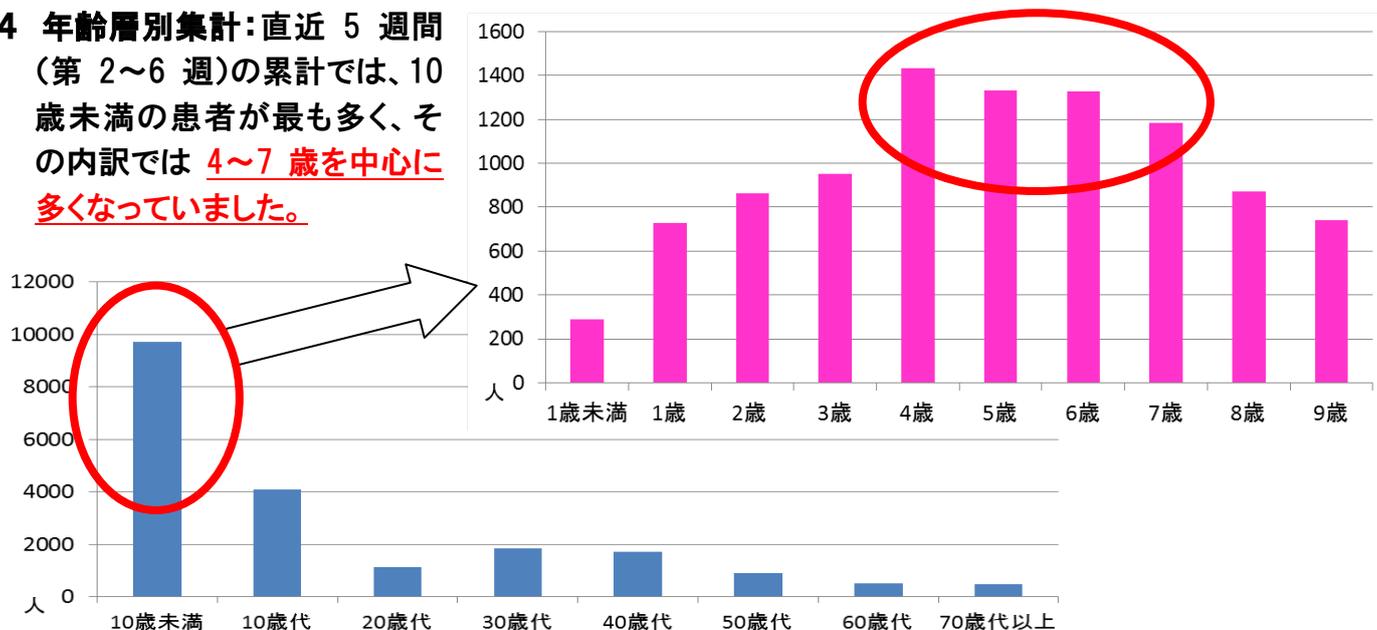
2 区別流行状況:市全体と同様、**多くの区で減少傾向**です。ただ、**現在も15区で警報レベル、3区で注意報レベル(定点あたり10.00以上)**となっています。



3 市内学級閉鎖等状況:第 6 週に入り、閉鎖のあった施設数は前週から半減しました。第 6 週の施設種別では、多い順に小学校 15 件、幼稚園 7 件、中学校 2 件、高校 1 件、その他 1 件でした。



4 年齢層別集計:直近 5 週間 (第 2~6 週)の累計では、10 歳未満の患者が最も多く、その内訳では 4~7 歳を中心に多くなっていました。

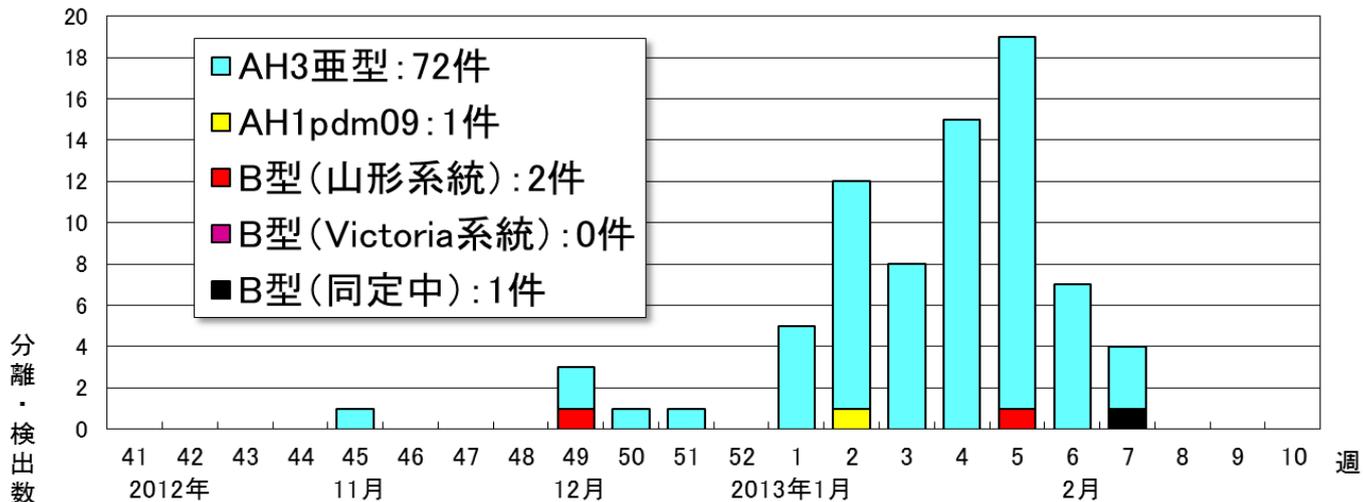


5 入院サーベイランス:基幹定点医療機関^{※3}における、インフルエンザの入院患者数は第 5 週の 23 人から第 6 週 12 人と減少しました。入院例はシーズンはじめの数例を除いてすべて A 型です。年齢層別(累計)では、70 歳以上(40.7%)と 10 歳未満(40.7%)で 80%以上を占めています。

※3 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

6 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から今シーズン計 76 件インフルエンザウイルスが分離・検出されており、そのうち AH3 亜型が 72 件(94.7%)とほとんどを占め、全国と同様の傾向です。

病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況 (2013年2月13日現在)



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9815